

研究課題	2.2 沖縄地方の低周波地震の震源決定と発生状況等の調査
研究期間	令和2年度～令和3年度（2年計画第2年度）
実施官署	沖縄気象台
担当者	（沖縄気象台）○崎原裕和、古謝秀和、崎濱 秀晴、松代 崇
担当研究官	[地震津波研究部] 溜瀧功史
目的	<p>現在、気象庁では南海トラフ沿いの深部低周波地震やゆっくりすべりの監視を行い、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会等の検討に利用している。また近年、南海トラフ沿いだけでなく、東北地方の日本海溝沿いなどでプレート境界の浅部で発生する浅部低周波地震（微動）やゆっくりすべりの研究が盛んに行われている。</p> <p>しかし、沖縄地方のプレート境界付近で発生するゆっくりすべりや低周波地震活動については、振幅が小さいために気象庁では決定できていない状況である。</p> <p>沖縄地方のプレート境界の固着状態を把握するための一つの方法として、低周波地震の活動状況を明らかにすることは重要である。そのためには、低周波地震の震源を自動で決定し、通常地震やゆっくりすべりとの発生場所の関係をさらに調査する必要がある。そこで、低周波地震を自動で検出し、低周波地震と通常地震やゆっくりすべり地震との発生場所を明らかにすることにより、沖縄地方のプレート境界の固着状況解明に繋げることを目的とする。</p>
研究の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の浅部低周波地震の検出プログラムの環境構築 ・浅部低周波地震の検出パラメータの調整 ・決定された震源を使い、低周波地震の発生頻度、発生場所を確認する。 ・プレート境界で発生していると想定されている繰り返し相似地震やゆっくりすべりと低周波地震の発生場所を比較する。 ・低周波地震、ゆっくりすべり、繰り返し相似地震の活動状況をまとめる。
令和3年度実施計画	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続き浅部低周波地震の検出プログラムを用いて沖縄地方の低周波地震の震源決定を行い、低周波地震の発生頻度、発生場所を確認する。 ・繰り返し相似地震やゆっくりすべりと低周波地震の発生場所を比較する。 ・低周波地震、ゆっくりすべり、繰り返し相似地震の活動状況の取りまとめを行う。